

日中戦争下における日本の華中支配と交通運営

——「愛路運動」を事例に——

日時：2023年5月28日（日） 13：00～15：00

場所：東久留米市生涯学習センター 第2集会学習室

講師：大野絢也さん（東京交通短期大学運輸科専任講師）

参加費：無料

■講演内容

日中戦争期、日本支配下の華中鉄道沿線で行われた「愛路運動」の実態についてお話しします。「愛路運動」とは、「鉄道愛護運動」、「交通愛護工作」等ともよばれ、1933年に満洲での鉄道沿線一帯を守備するため、関東軍と満鉄により宣撫工作として開始されました。日中戦争の全面化により日本軍占領地が拡大し、愛路運動の実施地域も拡がりました。しかし、満洲と比較して華中での交通網支配は安定せず、日本側は輸送維持と交通沿線の支配安定のために、満洲とは異なる様々な方策を通して「愛路運動」の展開を試みたのです。戦時下の交通支配を目的とした宣撫工作が、いかなる特質や限界を有していたのか、皆さんとともに考えてみたいと思っています。

★講師自己紹介

昨年春より、東京交通短期大学運輸科で専任講師をしています、大野絢也です。中国へは、湖南省長沙市の湖南師範大学へ2011～12年に語学留学しました。研究の専門分野は、中国近現代史です。特に南京国民政府期(1927～37年)から、日中戦争期(1937～45年)の交通や鉄道の歴史について研究しています。現代中国では、「一带一路」をスローガンに大陸各地を交通で結ぼうとする構想があります。その歴史的な淵源を探るのが、私の研究課題です。

